

シベリア鉄道の旅

ウラジオストク — ハバロフスク

石塚 隆
予科 8 - 6
航空 13 - 3
(蓮田市)



1. ウラジオストク

お隣の国ロシアは初めてである。飛行機で成田からたった2時間45分である。

クラブツーリズムの団体旅行3日間なので連れて行ってもらうことにした。

昔、ウラジオストクの近くに渤海という国があり、港が開かれて140年経つ。ウラジオストクは日本から一番近いヨーロッパ、海外旅行保険区分はヨーロッパである。

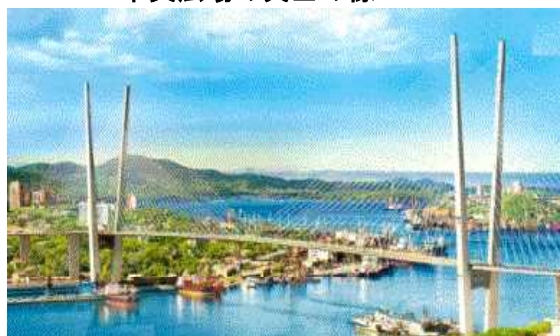
ウラジオストクの人口は約68万人。空港は新しいが、地下鉄はない。水道水は飲用に適さない。ソ連時代を偲ぶためそのころ建てられたビルのホテルに泊った。

トイレの水洗用のパイプのストッパーには寒いので凍りつくのを防ぐため棒を使用している。流れにくくなるのではないかと危惧する。バスはなく温水シャワーのみ、しかし、部屋の調度、ベッドは上質である。

極東連邦大学の中にある鷺の巣展望台には、霧のため3回行って、やっと金門橋を見ることができた。因みに金門橋は2012年にAPECが開かれたのを機に金角湾に懸けられた橋である。



中央広場の兵士の像



ウラジオストクの金門橋

鷺の巣展望台から金角湾を望む眺めは最高である。

金角湾はソ連時代の太平洋艦隊の母港であり、外国人の立ち入りは制限されていた。

ミサイルの時代、要塞の価値は失われた。現在は外国人にも解放されているが、軍港としての機能は残っている。そのため金角湾を訪れると多くのロシア海軍の軍艦を目にすることができる。



湾内のフリゲート艦

極東連邦大学の構内には与謝野晶子の歌

碑と本願寺派の仏像がある。

与謝野晶子がウラジオストクを訪れたのは1912（明治45）年5月のこと。晶子34歳、パリにいた鉄幹を追っての途中である。この歌碑が作られた経緯はよく判らないが、歌集『夏より秋へ』の中の「旅に立つ」と題する詩である。



与謝野晶子の歌碑

いぎ、天の日は我がために
金の車をきしらせよ、
颯風（ぐふう）の羽は東より
いぎ、こころよく我を追へ。
黄泉の底まで、なきながら、
頼む男を尋ねたる、
その昔にもえや劣る。
女の恋のせつなきよ。

晶子や物に狂ふらん、
燃ゆる我が火を抱きながら、
天がけりゆく、西へ行く、
巴里の君へ逢ひに行く。

詩碑にはロシア語による翻訳もついている。日本髪に和服という晶子の像が浮き彫りにされている。

西本願寺が布教のため1886年アレウソカヤ通りに浦潮本願寺を建てた。この寺は1937年まで存続していた。この仏像はその名残であろうか。

その他、ニコライⅡ世凱旋門、潜水艦C-56博物館、スーパーマーケットなどを見学した。



西本願寺派の仏像

ニコライⅡ世はロマノフ王朝最後の皇太子、明治24年（1891）訪日中に、大津事件が起こった。ニコライⅡ世凱旋門はロシア革命の時壊されたが2003年復元された。潜水艦C-56は陸に揚げられ、内部を見学することができた。魚雷8発、乗員数33名、館長は三佐。ロシア人は体が大きいので、私から見ると艦体は大きくゆったりとしていた。

2. シベリア鉄道にて

シベリア鉄道の終着駅であるウラジオストク駅のホームの中央には、「モスクワより9288Km」と刻まれた石造りのキロポストが立てられている。



ウラジオストク駅



ホームにあるキロポスト

ウラジオストクとハバロフスクの間は約770 km、夜行寝台車で11時間、4人部屋を2人が使う。車窓からの眺めは針葉樹林が延々と続く。樹林の密度も濃く木の背も高い、木材の輸出が多いと聞く。



シベリア鉄道の列車

3. ハバロフスク

ハバロフスクは極東ロシアの中心地である。駅近くの操車場は広く、機関車、古い貨車や車輪等が沢山置いてあった。スーパーは品物が豊富で店内の雰囲気も良い。コンビニは少ない。バスは韓国製、中古の日本車が多い。ボルシチは美味しかった。女性は20°Cで半袖である。大道は綺麗だが少し通りを離れると汚れたビルもある。

集中暖房のため小さな家は少ない。



第二次世界大戦犠牲者慰霊碑

アムール川（中国名黒竜江）の岸辺に立つと見渡す限りの緑、遥か彼方に山影がうっすらと望める。こんなシベリアの大自然がハバロフスク市街西側のすぐ近くにあるのだから驚きである。ハバロフスク市内、栄光広場には巨大なモニュメントがある。主に独ソ戦の犠牲者を祭った第二次世界大戦犠牲者慰霊碑である。

これとは別にハバロフスクの近郊に日本人死亡者慰霊碑がある。この慰霊碑は第二次大戦後シベリアに抑留されて亡くなった5万5千人の抑留者を慰霊するために1995年9月、日本政府が建立したものである。

日本人死亡者慰霊碑に隣接した平和慰霊公苑の中にはシベリア抑留者の墓地がある。自然林の中にある墓地には約300の墓と墓参団が建てた慰霊碑があった。抑留者のことを思うと感無量である。



墓前に花束を捧げる



林の中にある墓参団が建てた慰霊碑